

がん看護学実習Ⅲ

単位数：2 単位

時間数：60 時間

開講時期及び学期：2 年次前期

- 秋鹿都子 臨床看護学講座 准教授
- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
- 福田誠司 島根大学医学部附属病院 医療安全管理部
教授
- 奥野映子 島根県立中央病院 がん看護専門看護師
- 鳥屋尾由美 訪問看護ステーション愛 所長
- 福場衣理子 訪問看護ステーションいずも 所長
- 角 里美 訪問看護ステーションいずも 所長

1. 科目の教育方針

がんの治療期や医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、ならびに移行後のがん患者・家族に対し、シームレスな看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学ぶ。がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師の指導のもとでの看護実践を通し、在宅療養期や終末期にあるがん患者・家族の QOL 向上を目指した症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶとともに、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 在宅療養にかかわる多職種連携・協働について、具体的な実践に結び付けるための方略を習得する。
- 2) 在宅療養にかかわる多職種連携・協働において、がん看護専門看護師の果たすべき役割について理解する。
- 3) 地域医療連携におけるがん治療の連携、がん相談支援の実際について理解する。
- 4) 治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題について理解する。
- 5) 治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題に対して実践される、専門知識・技術、的確な判断に基づいた看護の実際について理解する。
- 6) がん患者・家族の在宅療養を支える上でのがん看護専門看護師としての役割と、それを担う上での課題について、看護理論や先行研究と関連づけて探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

地域がん診療拠点病院で行われている地域医療連携や、在宅療養への移行に向けた多職種による退院支援、がん患者と家族が在宅療養を継続する上で必要な支援について学び、がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師、がん看護専門看護師、指導教員のスーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての役割と実践上の課題を探究する。

【実習施設】

島根県立中央病院（入退院支援・地域医療連携センター、がん相談支援センター）
訪問看護ステーション愛
訪問看護ステーションいずも
訪問看護ステーションやすらぎ

【実習時期】

2年次前期 4～5月のうち 10日間

【評価】

実習記録の内容、多職種連携や協働に関する記録、訪問看護事例のケースレポート、課題レポート、実習計画書、カンファレンスへの参加状況、プレゼンテーションの企画・参加状況、実習への取り組み・態度、実習指導者の意見等により総合的に判定する。

*実習は原則 2 単位 90 時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定教員が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等

実習要項を別途示す

5. 教育内容

1) 外来診察室、外来化学療法室において

- (1) 治療期のがん患者への支援について、がん診療連携拠点病院の医師と地域のかかりつけ医が共有する「がん地域連携パス」の活用の実際、診療情報の共有の実際を学ぶ。
- (2) 治療期のがん患者の地域医療の連携において、がん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

2) 入退院支援・地域医療連携センターにおいて

- (1) 主治医、受け持ち看護師、訪問看護師、保健師等との退院支援カンファレンス等に、退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、がん看護専門看護師等と共に参加し、連携を目指した視点から、がん患者・家族が安心して在宅療養へ移行するために必要な支援と調整について考察する。
- (2) がん患者の在宅療養にかかわる多職種の連携・協働において、がん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

3) 訪問看護ステーションにおいて

- (1) 在宅医、ケアマネージャー、保健師等とのカンファレンス等に、訪問看護師と共に参加し、連携を目指した視点から、がん患者・家族が QOL の高い在宅療養を続ける上で必要な支援と調整について考察する。
- (2) 在宅療養におけるがん患者の症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶ。
- (3) がん患者・家族の健康問題が在宅療養におよぼす影響についてアセスメントし、QOL の向上を目指した支援を行うための多職種連携や協働に関する計画を立案する。
- (4) 立案した計画を訪問看護師に提案、あるいは共に実施し評価する。
- (5) がん患者の在宅療養に関わる多職種の連携・協働においてがん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

4) 地域医療連携センターおよび訪問看護ステーションにおける実習を通して学んだ、がん患者・家族の在宅療養を支援する上でのがん看護専門看護師の役割について考察し、プレゼンテーションを行う。